



『文化も変えなければ 生き残れない!?!』

SAM日本チャプター理事(広島支部長)
(株) ロジタント
代表取締役 吉田 祐起

※ ※ ※ ※ ※

先日NHKテレビを何となく観てましたら、ある日本の外資系上場会社の米国人社長さんが就任のインタビューでショッキングなことを言っていました。“日本人は文化も変えなければ生き残れない。かの恐竜が自然環境で死滅したと同様に、日本人が経済環境の激変の中で生き残るには、場合によっては日本人固有の文化をも変えなければダメだ”と。自社社員の心構えに革新を求めたキビシイ発言でもあるでしょう。

日本の「文化」と言えば、まず頭に浮かぶのは茶道、華道、能楽、歌舞伎、古事記など古典ものです。しかし、ここで論議の対象となっているのは、島国という地理的条件の中で長年にわたって形成されてきた、長いものには巻かれろ、和をもって尊しとなす、人前では余りはっきりとした意見は言わない、といった日本人独特の思考方法・行動面での「文化」ではないでしょうか。

かく言う私は、トラック運送業界の究極の規制緩和である「個人トラック制度(Owner-Operator System)」を提唱し続ける中で、そうしたシステムは「欧米後追い」に過ぎないと喝破します。かの金融システムや、年功序列給・終身雇用制の崩壊もシカリだと公言して憚りません。

国粹主義者(?)のカタカナ日本語氾濫への批判があるものの、それなくしては日本語そのもの

の存在も、日本文化すらも語れないほど欧米文化と言語は日本と国民に深く根ざしています。

「欧米後追い論者」を自認する中で、文化とは何ぞや!?! と自問自答する折、文化の日の日経新聞社説「科学技術の文化的側面を重視しよう」に遭遇し、目からウロコが落ちたって感じです。

宗教観の深いヨーロッパでは科学と宗教が対立も含め、強い相互関係を持ってきただけに、科学を文化ととらえる傾向が強く、反して日本は科学を経済活動の基盤と位置づけてきたと指摘しています。エコノミックアニマルの汚名の原点を垣間見ます。

尊敬を勝ち取る必要条件は、個人でいえば教養の高さ、国でいうなら文化レベルの高さ。となれば、世界に通じ喜ばれる科学技術の発展を「文化的動機」で推進していくことが大事のようです。

それにしても、日本が輸入してきたモノやサービスの後追いで、それらの文化的動機(理念・フィロソフィー)をその言語に至るまで輸入せざるを得ない現実を謙虚に受けとめることが必要です。

「新しい生き方を確立するには、新しい文化が必要になる」なる同社説の一文は、冒頭の米国人社長の弁を裏付けます。

何とも複雑な気持ちを禁じ得ないのはワタシだけでしょうか……。